



小豆島町の人口ビジョンと総合戦略

香川県小豆島町

小豆島町の人口ビジョンと総合戦略 2015～2019

【 小豆島を21世紀の日本と世界の「希望の島」に 】

【 基 本 理 念 】

小豆島の豊かな自然、文化、伝統、産業、人と人の絆などを守り、その魅力を磨き、新しい価値を加えて、次の世代につなげていく

日本や世界の人々との関係をつくり、お互いに交流し、みんなで助け合いながら、島の魅力を高める

自分たちのことは、自分たちで考え、行動し、変えていくという、本来の姿を取り戻す

地域の連帯感や助け合いの心で、自分たちの地域に誇りと自信をもって地域をつくっていく

人口ビジョン

❖ 今後とも移住者100人(うち50人が定住)が持続し、国の長期ビジョンと同様の合計特殊出生率(2040年に2.07、出生者80人～85人)を達成した場合、2060年の人口は、**約1万人**(社人研推計約6千人)になる。

❖ 高齢化率においても、**36.7%**(社人研推計49.5%)となり、**バランスのとれた人口構成**に向かっていく。

総 合 戦 略

基 本 目 標

ま ち

日々の暮らしを大切に人と人がつながりお互いに支えあう地域社会をつくる

地区・地域ごとに主体的、自主的な目標の設定と取組み

ひ と

家族や地域を愛し、地域社会を担っていく個性豊かで多様な人財を育む

人口に占める島回帰(移住者)100人を持続する

し ごと

地域の資源を活かし地域循環型の産業を育み、多様な就業の機会をつくる

地域経済の循環を高め商工会等の魅力を磨き多様なしごとをつくる

小豆島の基盤をつくる施策

小豆島中央病院を核とした地域医療の充実

利用者の視点に立った公共交通の再生

新しい高校を活かした文武両道の人づくり

瀬戸内国際芸術祭2016の取組み

基 本 施 策

健康づくり

子育て・人づくり

産業づくり

農業の再生と復興

文化・アート総合戦略

交通の復興

自然・環境

国際交流・移住者

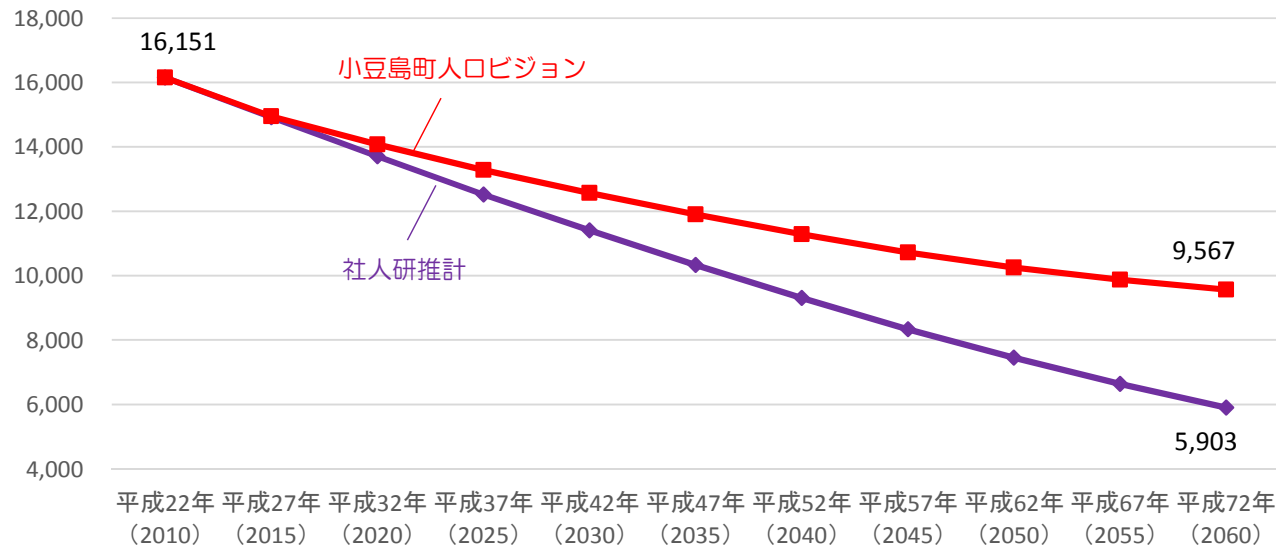
目標：6地域（5年間）

目標：年間移住者100人

目標：就業率 H31：55%

※小豆島町創生総合戦略会議を継続して開催し、PDCAによる効果検証を実施するとともに、住民のニーズや社会情勢の変化に応じて、随時見直しを実施する。

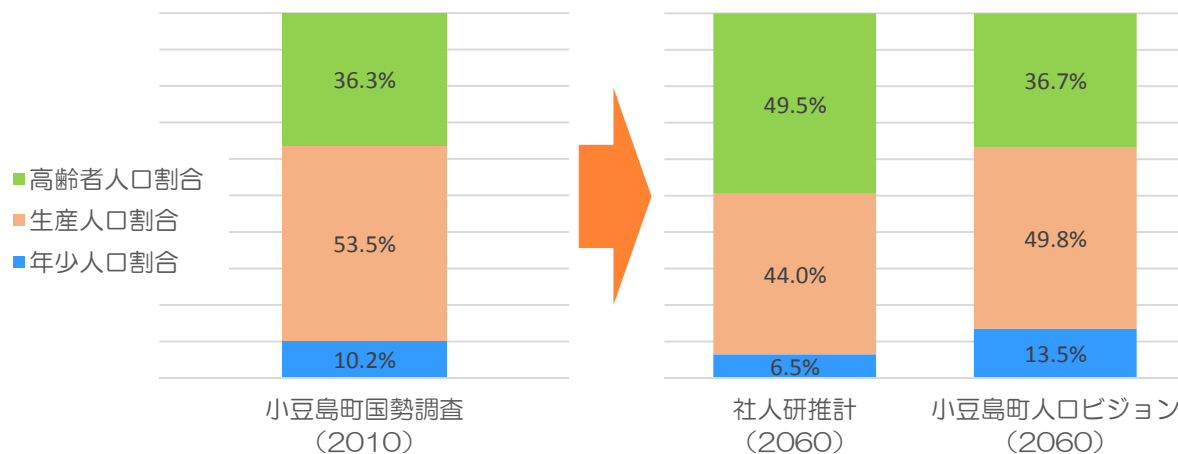
小豆島町の人口ビジョンについて ①



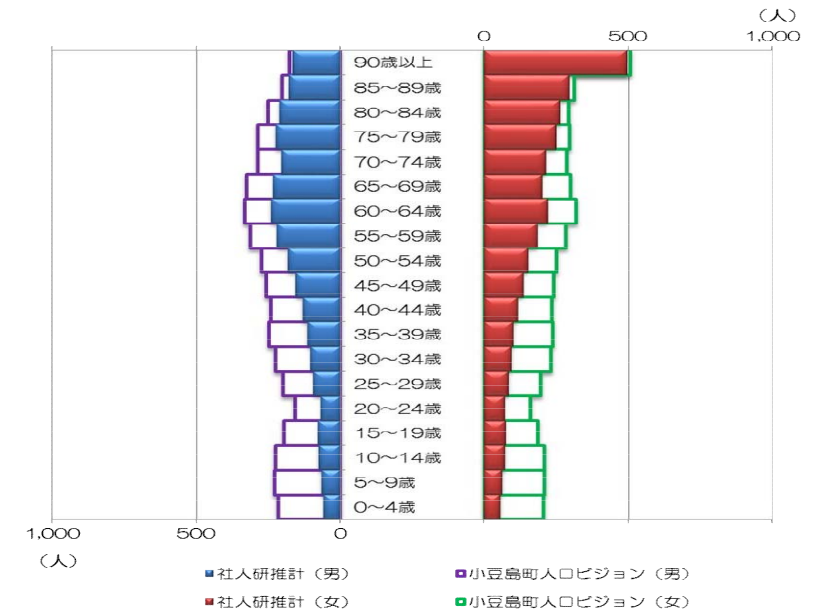
小豆島町人口ビジョン条件

- 移動・・・社人研推計と同様の「移動率」、さらに2020年からは、ここ最近の状況から年間100人の移住者のうち50%が定住すると見込む
- 出生・・・国の「長期ビジョン」と同様の合計特殊出生率での出生(約80～85人)を見込む
- 死亡・・・社人研推計と同様の「生存率」を見込む

3区分別の人口割合の変化



人口構成比較 (※2060年)



小豆島町の人口ビジョンについて ②

- ❖ 今後とも移住者100人（うち50人が定住）が持続し、
国の長期ビジョンと同様の合計特殊出生率（2040年に2.07、出生者80人～85人）を
達成した場合、2060年の人口は、**約1万人**（社人研推計：約6千人）になる。
- ・ **2060年に約1万人の人口を維持**
（社人研推計の約1.62倍）
- ❖ 高齢化率においても、36.7%（社人研推計49.5%）となり、バランスのとれた人口
構成に向かっていく。
- ・ **年少人口割合** 社人研推計 6.5%→人口ビジョン 13.5%
- ・ **生産年齢人口割合** 社人研推計 44.0%→人口ビジョン 49.8%
- ・ **高齢者人口割合** 社人研推計 49.5%→人口ビジョン 36.7%

コミュニティ・レベルからの地方創生を目指して

人口ビジョン

小豆島町
全体

総合戦略



●●例●●

地区・地域ごとに（旧小学校区のイメージ）

旧小学校区などの地域ごとに、
それぞれの地域が主体的、自主的に目標の設定と取組み



人口に占める島回帰（移住者100人）の持続を目指して

趣 旨

移住者は、
レストランや農業、
オーリーブやアートなど、
小豆島の魅力を高める
担い手

英会話教室や絵画教室、
自然遊びなど、
日本一の子育ちプランの
実践に多様な人財が必要

地域の人と移住者が
交流し、お互いに切磋琢磨
することで、化学反応が
起こり、地域の魅力が向上

外の視線で
島をみつめ、人と人、
地域と地域をつなぎ、
絆や助け合いの心を育む
地域みがきを実現

総 合 戦 略

小豆島中央病院を核とした地域医療の充実

すくすく子育て応援アクションプランの実践

地域資源を活かした食の地場産業の活性化

瀬戸内国際芸術祭2016の取組み

移 住 戦 略

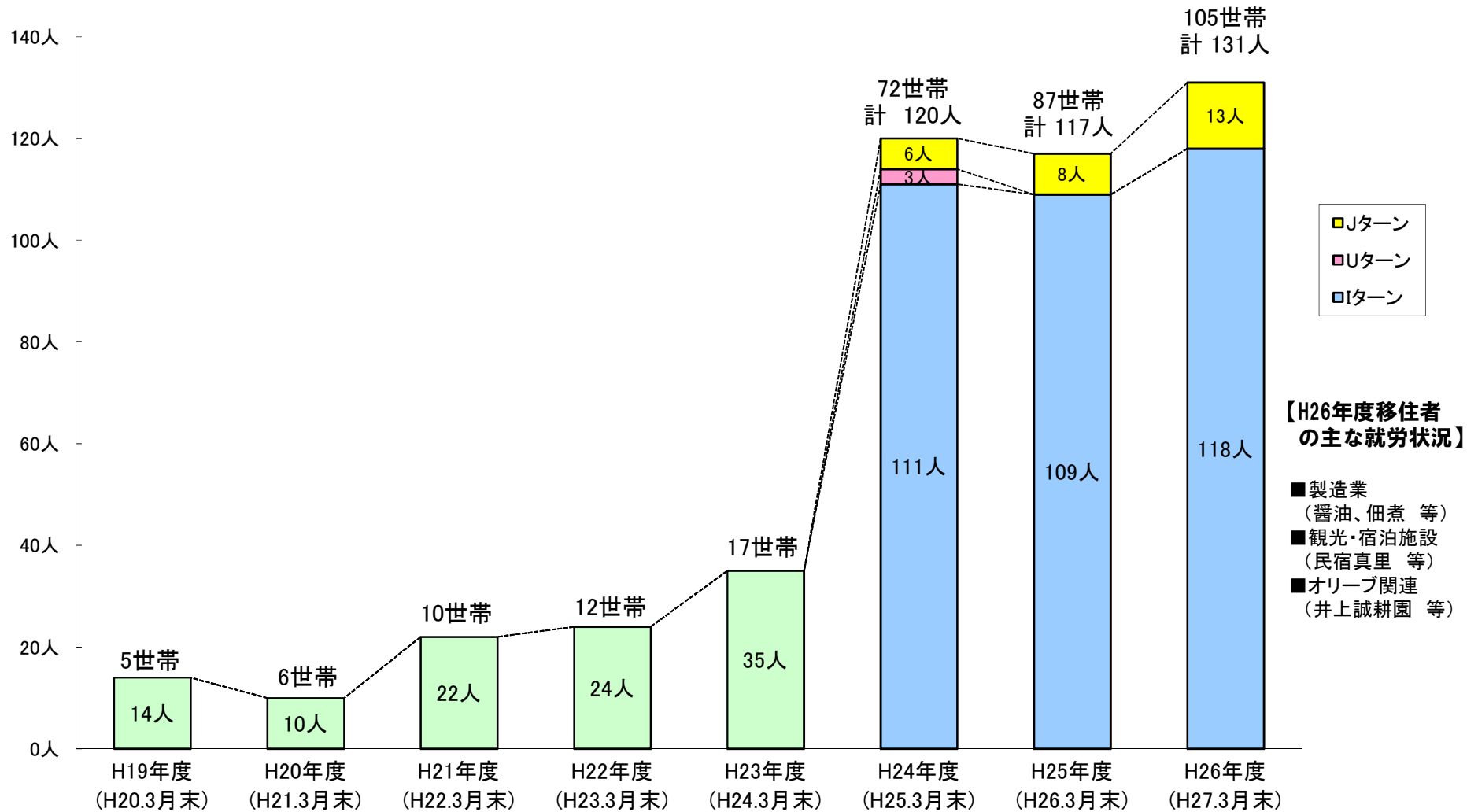
多様な人財や能力を呼び込むNPO法人の設立

心をつなぐ移住相談窓口の設置

空き家の有効活用に向けたバンクの充実

交流人口の拡大を目指す体験施設の運用

小豆島町移住者数の推移(年度別)



小豆島で活躍する移住者の皆さん

地元の新鮮な素材を活かして

渋谷 信人さん（山形県出身/H23. 6移住）



地元住民との交流イベントのようす

【経歴・活動状況等】

- ・東京六本木、兵庫県西宮のイタリアンレストランで修業後、小豆島町に移住
- ・H23年8月にイタリアンレストラン「FURYU」をオープン
- ・H28年度からは新たに小豆島の食材を使用したジェラートショップを開業予定

小豆島からアートを世界中に発信

パトリック・ツアイさん（東京都・アメリカ出身/H26. 12移住）



子どもたちと英語で交流するようす

【経歴・活動状況等】

- ・アメリカニューヨーク大学映画学科卒業
- ・アーティスト、写真家として、東京の美術館での展示や写真集が『TIME/タイム』ベスト2012に選ばれるなど、幅広い活動を展会
- ・英語やパソコンの教員歴を活かした新しい学びの教室など、草壁地区を拠点に展開予定

移住者の知恵とパワーや情熱で
新しい地域おこしの風を！

野菜づくりは人づくり

谷口 勉さん、園江さん（愛媛県出身/H17. 11移住）



移住を機にアスパラ栽培を始めた谷口さんご夫妻

【経歴・活動状況等】

- ・移住をきっかけにH21年からアスパラの栽培を開始
- ・H27年に、認定農業者（農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする農業者）に認定
- ・現在、アスパラを20a栽培、さらなる収穫量増加をめざし、夫婦で奮闘

東瀬戸内の石の文化を世界遺産に

川宿田 好見さん

（鹿児島県出身/H25. 7移住）



江戸時代の修羅引き再現実験のようす

【経歴・活動状況等】

- ・鹿児島国際大学国際文化学部人間文化学科卒、同大学院国際文化研究科博士後期課程修了
- ・世界考古学会議中間会議大阪大会においてベスト・ポスター賞受賞
- ・考古学、博物館学を専門に、地域の活性化について、文化遺産を用いた学術研究と住民共同の考古学（パブリック・アーケオロジー）を実践

地域の資源を活かし地域経済の循環を目指す取組みの考え方

～ 地域内でお金を回し、多様なしごとをつくっていく ～

経済(お金)の流れと仕組み

たくさん稼いでも、地域内で使われず、
お金がすぐに出て行ってしまうと、地域内の所得は増えない

入ってくるお金

人口減少など経済のパイが小さくなるなかで、魅力ある商品の開発 →

商品などの売り上げ

小豆島の自然、文化、伝統、アートなど魅力を高める取組み →

観光などサービスの売り上げ

国の財政が厳しいなかで、今後は縮小していく →

国の補助金、交付税、年金、税金

今は全体の不足を
ここで補填

出ていくお金

原材料、エネルギー、商品などの仕入れ

❖海、気候、風土など地域の資源を活かし、農業や漁業の元
気をつくり、食の原材料の確保と地産地消の推進
❖再生可能エネルギーの活用

本社などへのお金の移転

❖地域に密着した多様な企業を育む
❖企業版ふるさと納税の推進

町外の商品やサービスなどの購入

❖商工会の魅力を磨き、徹底した地元商店の利用
❖小豆島中央病院や地域公共交通などをみんなで利用

大学生などへの仕送り

❖町の将来を担う人材を育むため、一定の税を投入
❖小豆島の魅力を高める調査や研究、アートなど「知」の還元

小豆島町

町 外

- ★地域でお金が回る好循環
- ★地域のつながりが強化
- ★顔の見える安心な食生活
- ★災害に強い暮らしの実現

小豆島町の総合戦略の「小豆島の基盤をつくる」施策

小豆島の基盤をつくる施策【2015・2016】

小豆島中央病院を核とした 地域医療の充実

新しい病院を島のみんなで作くり、
島のみんなの力で成功させる

利用者の視点に立った 公共交通の再生

新病院への通院、新設高校への通学、
観光の周遊性の確保などに向けて、
オリーブバスの運賃、路線、頻度など
について、抜本的に見直す

新しい高校を活かした 文武両道の人づくり

希望する進路の実現と将来の夢にチャ
レンジできる文武両道の島外にも魅力
ある、新しい高校を島をあげて創る

瀬戸内国際芸術祭 2016の取組み

食・国際化・他地域との連携をテーマ
に海の復権を目指し、地域の絆や連帯
感を高め、自信と誇りを取り戻すきつ
かけとし、瀬戸内海と小豆島の魅力を
日本と世界に発信する



小豆島町の総合戦略の基本施策 2015～2019

基 本 施 策

【 小豆島を21世紀の日本と世界の「希望の島」に 】

健康づくり

- ❖ 住み慣れた地域で安心して暮らせる社会をつくる
- ❖ 健康で生きがいを持って暮らせる社会をつくる
- ❖ 障害を持つ人たちの可能性をひらく福祉をつくる
- ❖ 新しい病院を島の人々でつくり、地域医療を充実する

子育て・人づくり

- ❖ すくすく子育て応援アクションプランを実践し、日本一の子育てをめざす
- ❖ 小豆島でしか出来ない幼・保・小・中・高の一貫教育を実践する
- ❖ 新しい教育のあり方を小豆島高校跡地を活用して実現する
- ❖ アート、演劇、音楽などを通して、子どもたちにコミュニケーション能力を身につけさせる

産業づくり

- ❖ もう一度、醤油・佃煮・素麺など、小豆島の食の地場産業を活性化させる
- ❖ 小豆島の農やアート、ITなどと連携した新しい産業をつくる
- ❖ 島の魅力を高め、関係人口(ファン)を増やし、観光産業を活性化させる
- ❖ 商工会の魅力を磨き、商店を守る
- ❖ 安心して暮らせるまちの福祉産業をつくる

農業の再生と復興

- ❖ オリーブなどの農産物を、6次産業化にとどまらず、アート、福祉、教育などと連携する
- ❖ 体験型農業を取り入れるなど、オリーブ公園、ふるさと村の魅力を再生する
- ❖ 中山の棚田、安田の郷、池田地区などの豊かな農村環境を守り、鳥獣害対策を推進し、移住者など新規就農者を支援する
- ❖ 瀬戸内海の環境を調査・研究し、漁業の再生に取り組む

文化・アート総合戦略

- ❖ 農村歌舞伎、八十八か所霊場など、小豆島の歴史、芸術文化を大切にするとともに、壺井栄・黒島伝治・壺井繁治再発見プロジェクトを進める
- ❖ 瀬戸内国際芸術祭2016などにより、外の視点で地域の魅力を見直し、磨いて地域の自信や絆を再生する
- ❖ 日本遺産への認定や文化財指定など貴重な文化に光を当て、地域の誇りを取り戻し、次の世代につなげていく
- ❖ 東瀬戸内文化圏の「石の文化」の「世界遺産化」をめざす

交通の復興

- ❖ 小豆島のバスなどの公共交通を抜本的に見直す
- ❖ フェリーポートなど、航路を守る取組を続ける
- ❖ 通学、通院などが安心してできるよう国道などの整備を進める
- ❖ 交通弱者のための移動手段を確保するほか、環境にやさしいエコカー、自転車などを普及する

自然・環境

- ❖ 寒霞渓や皇子神社社叢など小豆島の貴重な自然・環境を守るため、島民学習や保存活動を推進する
- ❖ 産官学民が連携し、瀬戸内海の環境の調査・研究を進める
- ❖ 滞在施設への転用やポケットパークの整備など、空き家・空き地の活用を進め、地域環境を再生する
- ❖ ごみの減量化に取り組み、新しい埋立処分地の整備を進める

国際交流・移住者

- ❖ 瀬戸内海の島々とのつながりを大切にし、瀬戸内海の魅力を日本と世界に発信する
- ❖ 瀬戸内国際芸術祭、そして「福武ハウス」のアジア・アート・プラットフォーム構想を持続して行う
- ❖ 多様な人財や能力を呼び込むため、NPO法人を設立する
- ❖ 移住相談窓口の拡充、空き家バンクの充実、体験・交流施設の展開など多様化するニーズに対応する

小豆島と日本の歴史をふりかえり、再び輝く時代へ

小豆島の未来

島のもっている魅力



未来を輝かせる新しいいちから

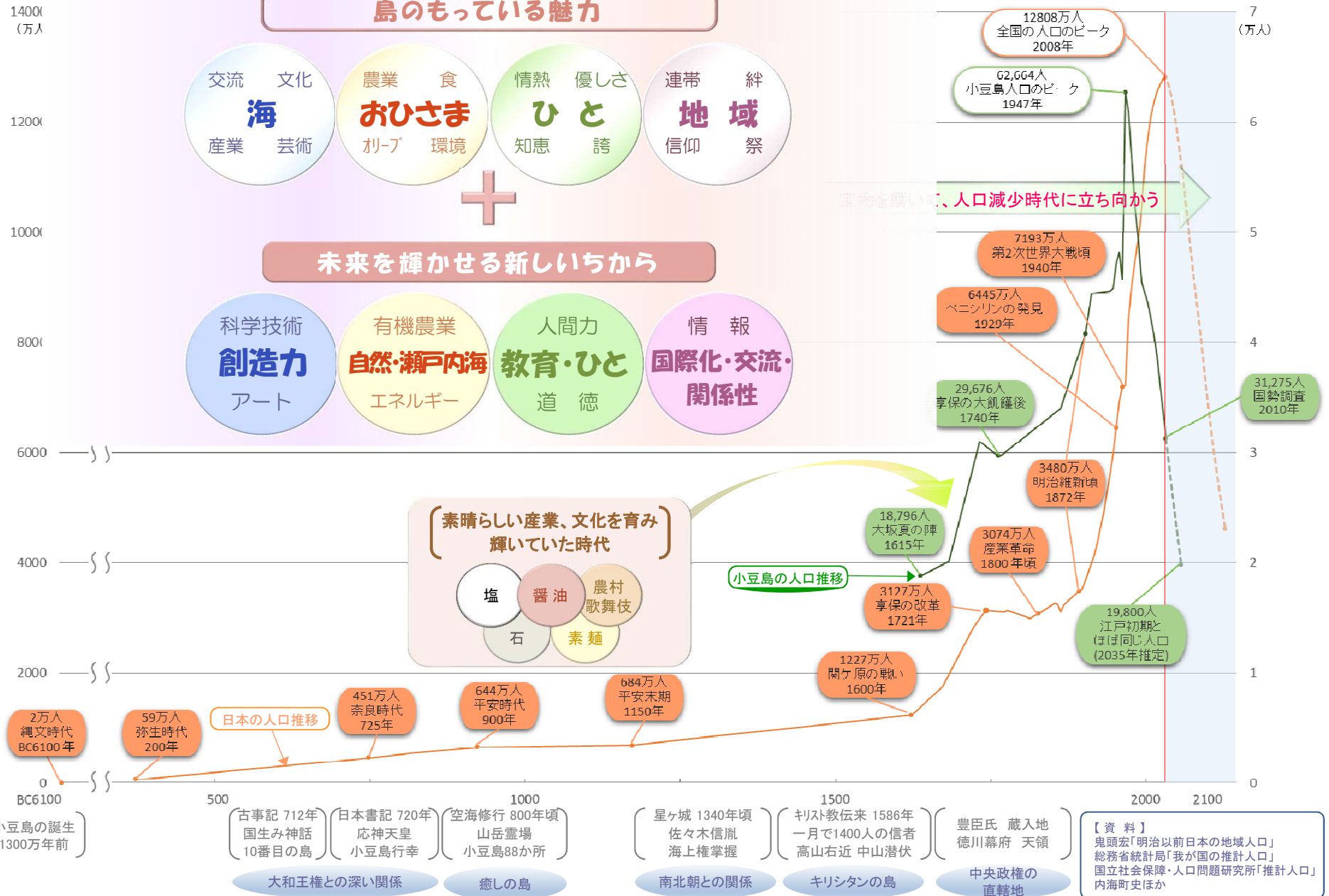


【素晴らしい産業、文化を育み輝いていた時代】

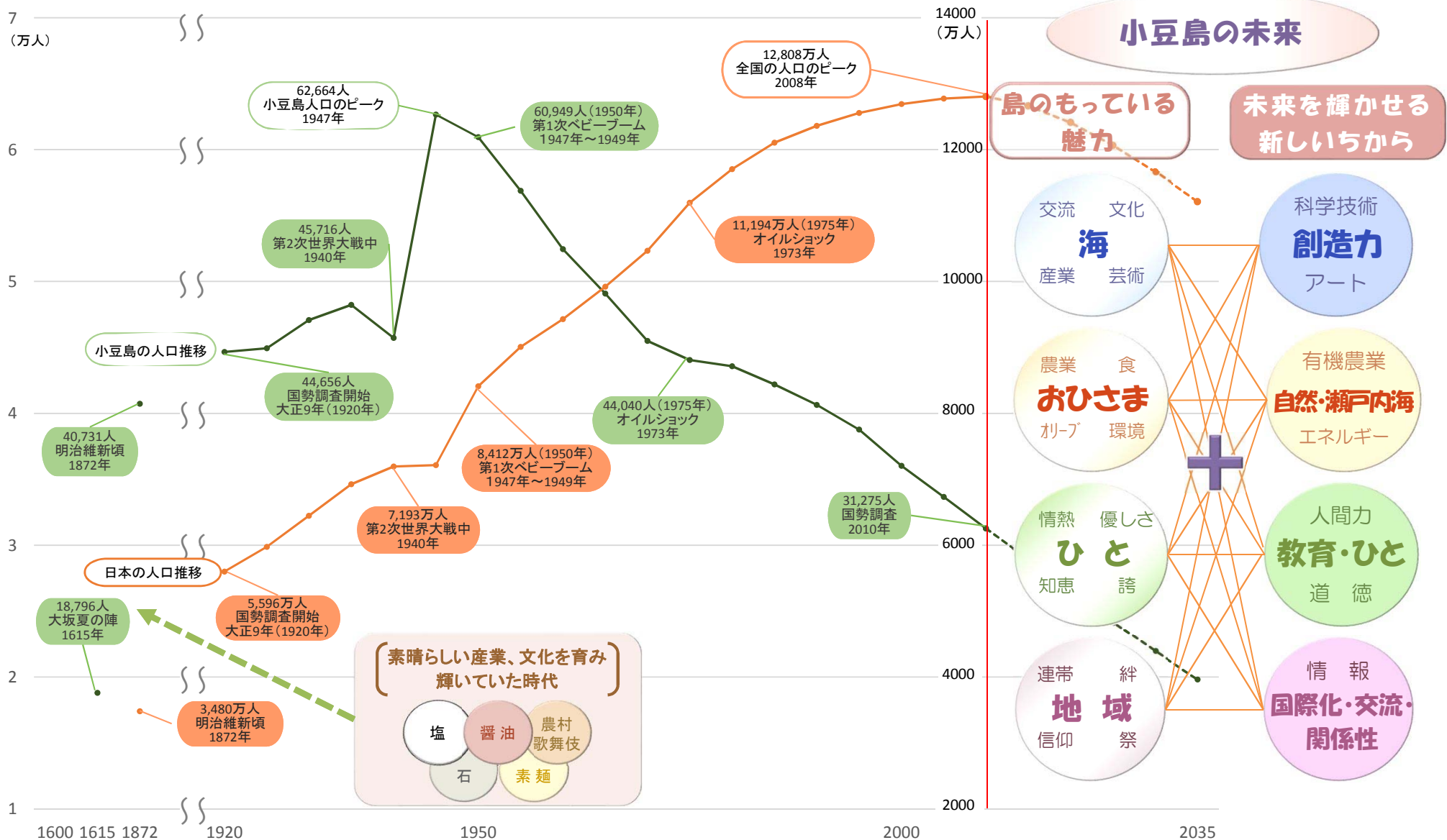


人類が経験したことのない急激な人口変動

150年



小豆島と日本の歴史をふりかえり、再び輝く時代へ



【資料】
総務省統計局「我が国の推計人口」
国立社会保障・人口問題研究所「推計人口」
内海町史ほか